

第3回相原駅東口まちづくり検討会 会議要旨

場 所：堺市民センター ホール

日 時：2014年2月26日(水曜日) 19時00分～21時00分

出席者：地 権 者 等：14名

町 田 市：地区街づくり課 萩野課長、吉原担当課長、加藤係長、
高梨主任、森本主事

コンサルタント：(株)計画技術研究所 須永、宮本、阿部

<次第>

1. 開会

2. 報告

(1)第2回のふりかえり (相原原東口まちづくりニュース第2号)

3. 本日の検討内容について

(1)東口アクセス路の幅員とルート及び東口周辺の土地利用 (資料1)

4. 今後についてのお知らせ

<配布資料>

相原原東口まちづくりニュース第2号

資料1 東口アクセス路の幅員とルート (案)

参考資料1 第2回相原駅東口まちづくり検討会 会議要旨

参考資料2 相原駅東口周辺の都市計画・建築規制について
意見・質問記入書

1. 開会

2. 報告

相原駅東口まちづくりニュース第2号を用いて前回話し合った内容を振り返りました。

東口のアクセス路の検討について

(意見) 町田街道立体交差化事業の影響を前提にした検討ではなく、東口をどうしていきたいかという視点の検討が大切と考えている。

立体交差化により相模原方面への通行が不便になってしまう。相原の生活圏は町田より橋本である。これからリニア中央新幹線も整備されるので、橋本を意識したまちづくりを考えないといけない。

(市の答え) 第二回検討会で、「昔は、町田街道から駅に通じる道路は相原の中心で商店が並んでいましたが、道路が狭くて安心して買い物ができなくなり、東口の元気がなくなってしまった。」との意見が出ていました。

町田街道立体交差化事業により、外から自動車で帰ってきても渋滞なく帰宅できるようになりますし、防災性も現在より向上すると考えています。それを踏まえた上で東口アクセス路を整備することによって、東口の将来のまちづくりをいかにデザインしていくかが重要であると考えています。現在の検討会では、東口アクセス路を中心に検討が進んでいますが、市としては土地利用についてもご意見をいただき、それに沿った街づくりをしていきたいと考えています。

(意見) これまでに税金を納めてきているが、この地区ではこれまで堺市民センターができただけである。1年間で固定資産税や都市計画税をどれだけ払ってきているか。財政的に見ると、お金はたくさんあると考える。

道路については、こんなにたくさんの意見が書いてあるのにいくつかしか説明しなかった。他の意見についてもあったはず。

こんなに長い時間をかけているのだから、東口アクセス路の案について早く示して欲しい。

建築基準法に基づく2項道路や道路法に基づく道路などいろいろあるが、道路法で管理するというのが都市計画法や建築基準法の趣旨だと思う。そういうことには配慮して、道路のあるべき姿を考えて、東口アクセス路を検討してほしい。

(市の答え) 堺市民センター以外にも、駅の自由通路整備や西口は駅前広場等の整備を行っています。一方で東口は何も変わっていません。今回の計画を実現することにより、今までお支払いいただいた都市計画税に見合った街を早く創るべきと考えていますので、ご意見、ご協力をお願いします。

東口アクセス路整備までのスケジュール

(意見) こういった会議が何度も開催されているが、いつ頃までに計画が実現する予定になっているか。

(市の答え) 東口アクセス路につきましては、町田街道立体交差化事業によって相原駅入口交差点がなくなり、東口に入れなくなります。その前に東口アクセス路の整備が終わる必要があると考えています。最終的にはそこが目安ですが、早く整備が進むのであれば、それがいいと考えています。これまでの検討会で建設的な意見をいただいているので、今後、検討会としての意見をとりまとめることができると考えています。

合わせて東口アクセス路ができるので、それを地元が活用し発展できるように土地利用についても考えていきたい。駅周辺は店舗などができる近隣商業地域だが、駅から離れて陽田川に近くなると、第1種低層住居専用地域となり、戸建住宅を主とした土地利用となっています。新しい道路沿道について、どのような土地利用にしていけばよいかということについても検討していきたい。それほど時間をかけず、検討会の結論を出し、次の段階として、具体的に道路用地がかかる地権者の皆様と詳細な話を進めていければと考えています。

(意見) この事業に関する市の予算はどのようなスケジュールで決まるのか。それがはっきりしないといくら検討してもしょうがない。

(市の答え) 道路整備にはまず測量が必要です。

今後、話がまとまれば、2015年度以降に予算を確保することになります。

その後、土地の境界などを確認し、一定のご了解をいただいた後に用地を買わせていただき、道路整備を行います。日程、予算の見込みについては現時点では定まっていません。

3. 本日の検討内容について

第2回検討会の意見を踏まえて、東口アクセス路の幅員とルート（案）について説明しました。その後2つのグループ分かれて意見交換を行いました。

○東口アクセス路の基本的な考え方について

第2回検討会でも提案したとおり、以下2点について説明しました。

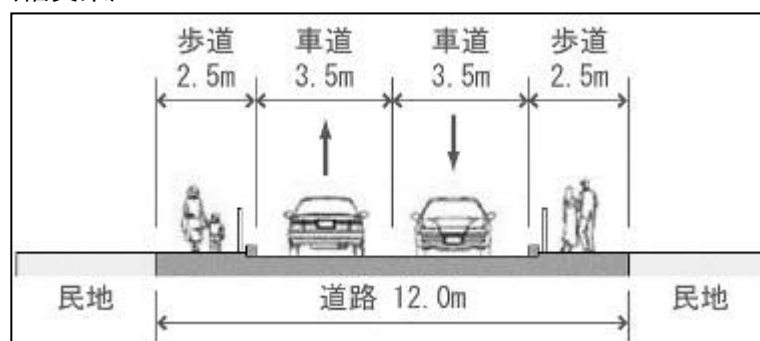
<整備ルートの基本的な考え方>

- (1) JR横浜線にできるだけ近い位置で町田街道に接続します
- (2) 現況道路を活かします

○幅員（案）について

第2回検討会のご意見や「道路の幅員の根拠となる断面構成イメージ」を踏まえ、幅員（案）を説明しました。

<幅員案>



<道路幅員の基本的な考え方>

- ・東口と町田街道を結ぶ地域の骨格的な道路になるため、自動車が安全にすれ違えるように2車線とし、高齢者、子ども、車いす利用者等の安全を確保するために両側に歩道があることが望ましいため、幅員は12m必要と考えています。

<車線幅員の考え方>

- ・車道は道路の整備基準に基づき、1車線の標準幅員3.0mと、歩道との境界部に路肩0.5mを確保し、片側3.5m必要と考えています。

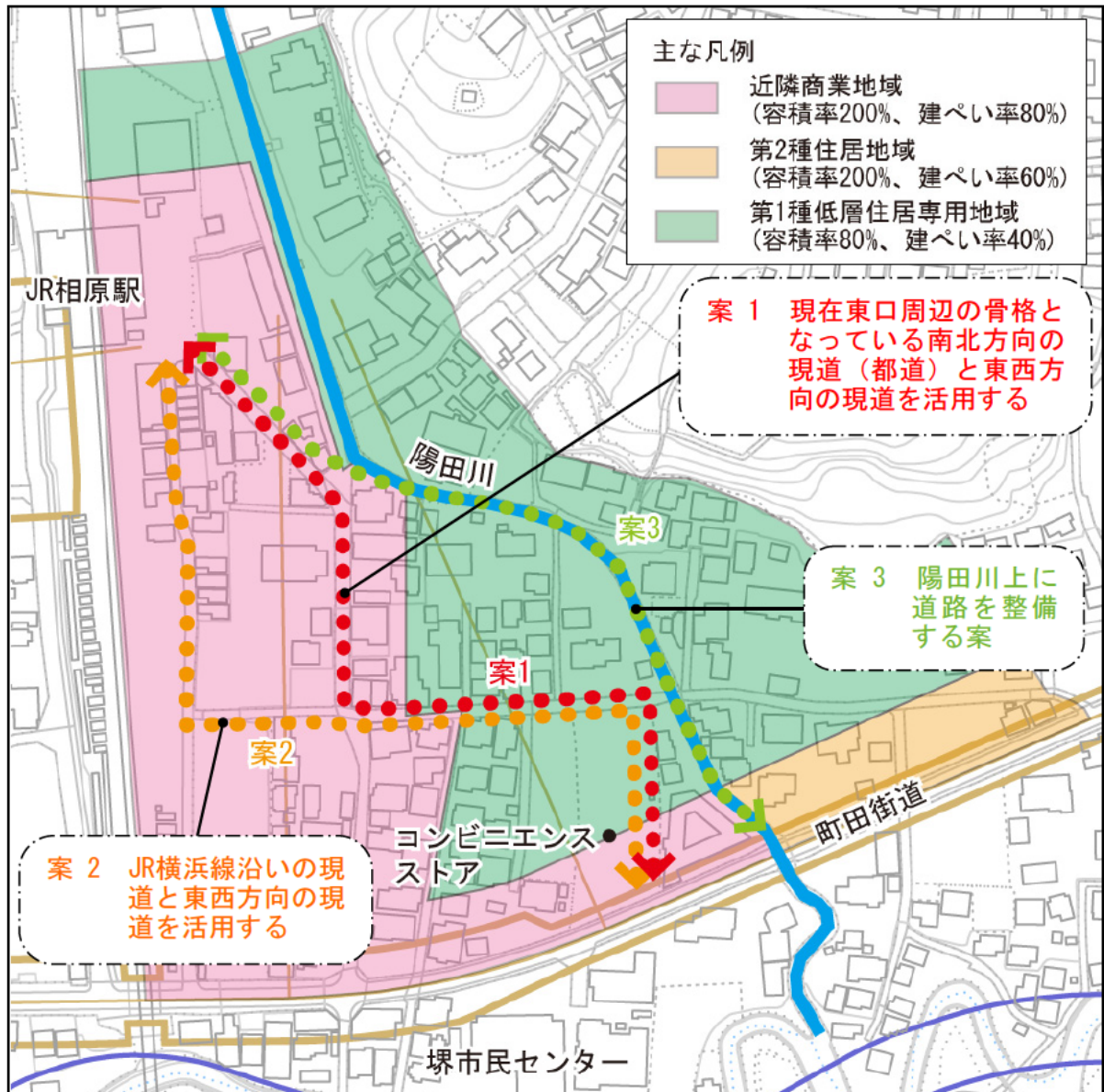
<歩道幅員の考え方>

- ・歩道は道路の整備基準に基づき、最低2.0m必要で、また、横断防止柵（ガードレール）などの設置スペースとして0.5mを確保し、合計2.5m必要と考えています。

○ルート（案）について

第2回検討会のご意見や東口アクセス路の基本的な考え方を踏まえ、3案提案し、それぞれの案の道路交通上、土地利用上のメリット・デメリットを説明しました。

〈ルート案〉



〈メリット・デメリット〉

道路交通上のメリット・デメリット

案1

- JR横浜線に近い位置で町田街道に接続できる。
- 東西方向（一部区間）の現道の一方通行が交互通行になる。

案2

- JR横浜線に近い位置で町田街道に接続できる。
- 東西方向（一部区間）の現道の一方通行が交互通行になる。
- JR横浜線沿いと東西方向の現道に高低差があるため、歩道に勾配ができ、歩行者や車いすが利用しにくくなる。また、沿道の土地では道路の高さに合わせてかさ上げが必要になる。

案3

- 道路線形は良好である。
- JR横浜線から遠い位置で町田街道に接続する。

土地利用上のメリット・デメリット

案1

- 現在骨格となっている南北方向の現道を活用するため、土地利用への影響は少ない。
- 東西方向（一部区間）の現道沿道の土地利用への影響が大きい。

案2

- JR横浜線に近いため、沿道土地利用の効果が高まらない。
- 東西方向（一部区間）の現道沿道の土地利用への影響が大きい。

案3

- 山に近いため、沿道土地利用の効果が高まらない。
- 東口周辺から町田街道から陽田川を蓋がけする必要があるため、身近な自然環境や良好な景観が失われる。

○資料説明を踏まえた意見交換

資料 1 の説明を踏まえ、意見交換を行いました。

東口アクセス路整備による土地利用上のデメリットについて

(意見) 「沿道の土地利用の効果が高まらない」、「土地利用への影響が大きい」といった表現があるが、具体的にどういうことか教えてほしい。

(市の答え) 道路整備を行うと、自動車を通る以外にも地域の方が沿道で買い物ができるようになるなど、いろいろな効果があります。道路の利用価値を高めるためには案 1 が比較的效果が高いと考えています。案 2 は、新しい道路と JR 線路の間が狭く、道路の利用価値が高まりません。案 3 も、新しい道路に沿って、北側に山がせまっているため、土地利用ができる用途地域になっても、その効果が十分に発揮できないと考えています。

災害に強いまちづくりへの対応について

(意見) 災害に強いまちづくりが重要な課題になっていると思うが、自然災害に対するまちづくりという視点はないのか。

案 3 で陽田川を暗きょ（地下に埋設したり、ふたをかけたりした水路）にした場合、震度 6 強の直下型地震に耐えられる設計になるのか。暗きょになると水の流れが見えなくなり、流量が分からなくなる。

各所でゲリラ豪雨が発生しているが、暗きょの部分に土砂や流木がひっかかって、陽田川がせき止められた場合、陽田橋から南側では床上浸水、床下浸水が発生し、町田街道のアンダーパスに水が流れる。町田街道はそれを考慮した排水能力を持った設計になっているのか。

(市の答え) 案 3 については、流量や構造の具体的な検討はまだしていません。

都は、町田街道の立体交差部分に水が入らないように周りで排水処理をすることです。

(意見) 地震、増水などで町田街道のアンダーパスが使えなくなった場合の交通のバックアップが必要だと思う。バックアップのために踏切を残すということは考えていないのか。

(市の答え) 町田街道立体交差化事業は踏切を無くすことが大原則になっています。

交通のバックアップとしては、相模原市に町田街道と並行して、宮下立体交差（都市計画道路相原宮下線と JR 横浜線の交差）が整備中で、完成すれば、自動車の迂回ができると考えています。

- (意見) 陽田川の水量は、一番ひどかったときに中央橋の下 30cm くらいの水位だったことがある。近年局所的に雨が降るようになったことを考えると、川に蓋を架けるのはとんでもないことだと思う。ルート案からはずしてほしい。
- (市の答え) まずはルート案としてお示しし、具体的な課題について今後検討していきたいと考えています。

東口周辺全体の道路交通上の課題への対応について

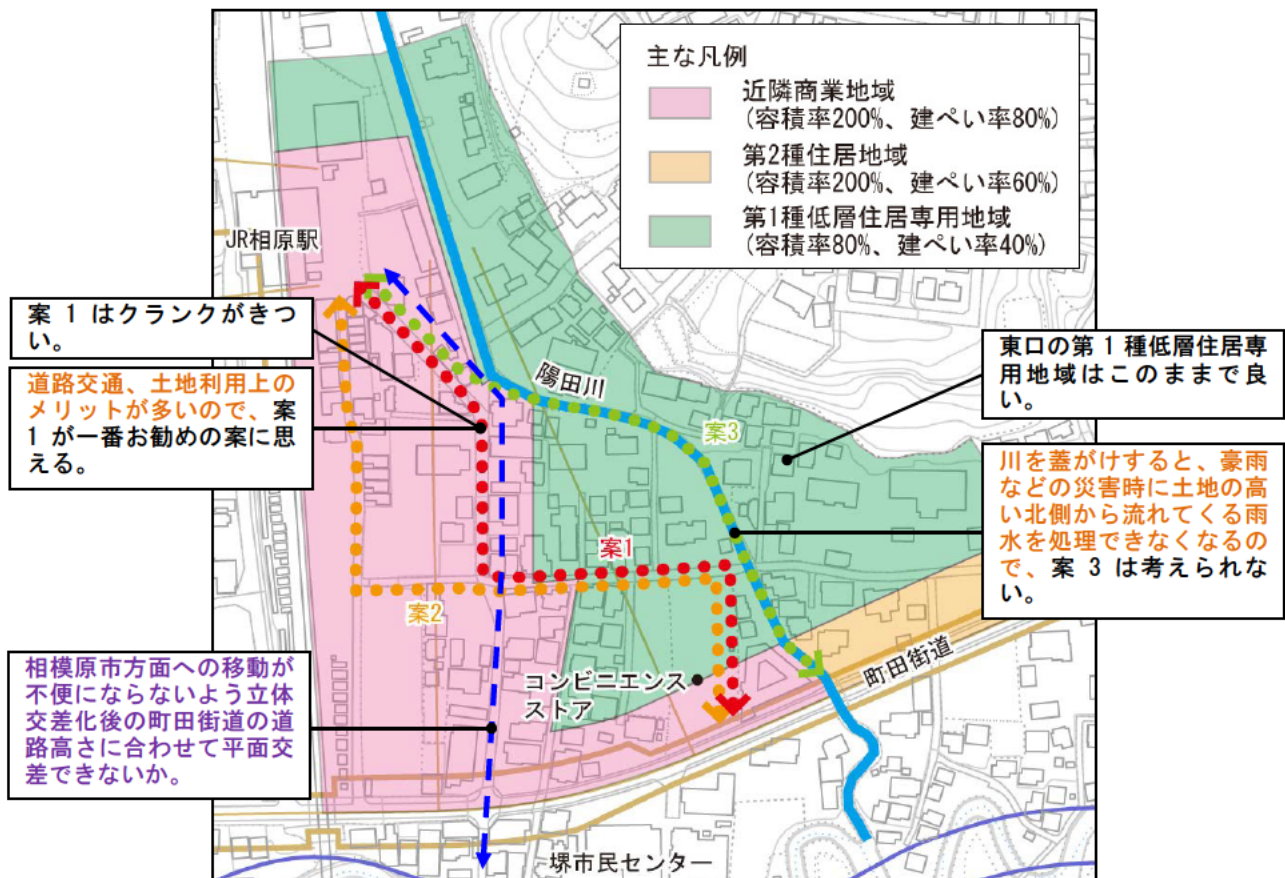
- (意見) 町田街道立体交差化事業に伴い、東口周辺の生活利便性を向上させるかという観点で検討が始まったと思うが、今日の説明だけ聞くと、東口と町田街道を結ぶ 1 本の道路とその利用効果だけで、周辺住民の利便性が損なわれるという点については検討されていないと思う。例えば、地区内の道路が狭い、町田街道立体交差化事業により側道に出なければいけなくなり不便になるといった問題もあるが、そういう点について検討はするのか。
- (市の答え) ルート案は骨格的な道路について示しています。その他に拡幅が必要な道路などのご意見があれば出していただければと思います。

○東口アクセス路に関する検討

資料 1 を踏まえ、2つのグループに分かれて、グループごとに議論しました。最後に各グループの議論の内容について発表し、参加者全員で意見を共有しました。

各グループの主な意見は 9、10 ページをご覧ください。

〈グループ1の主なご意見〉



（上記以外の主なご意見）

○東口の土地利用について

- ・東口アクセス路を整備するなら、それに合わせて土地利用も見直す必要がある。
- ・東口アクセス路を整備しても、東口には店舗はできないと思う。
- ・この地区に高層マンションは必要ないと思う。

○現況道路の拡幅について

- ・東口アクセス路だけではなく、地区内の狭い道路を整備してはどうか。

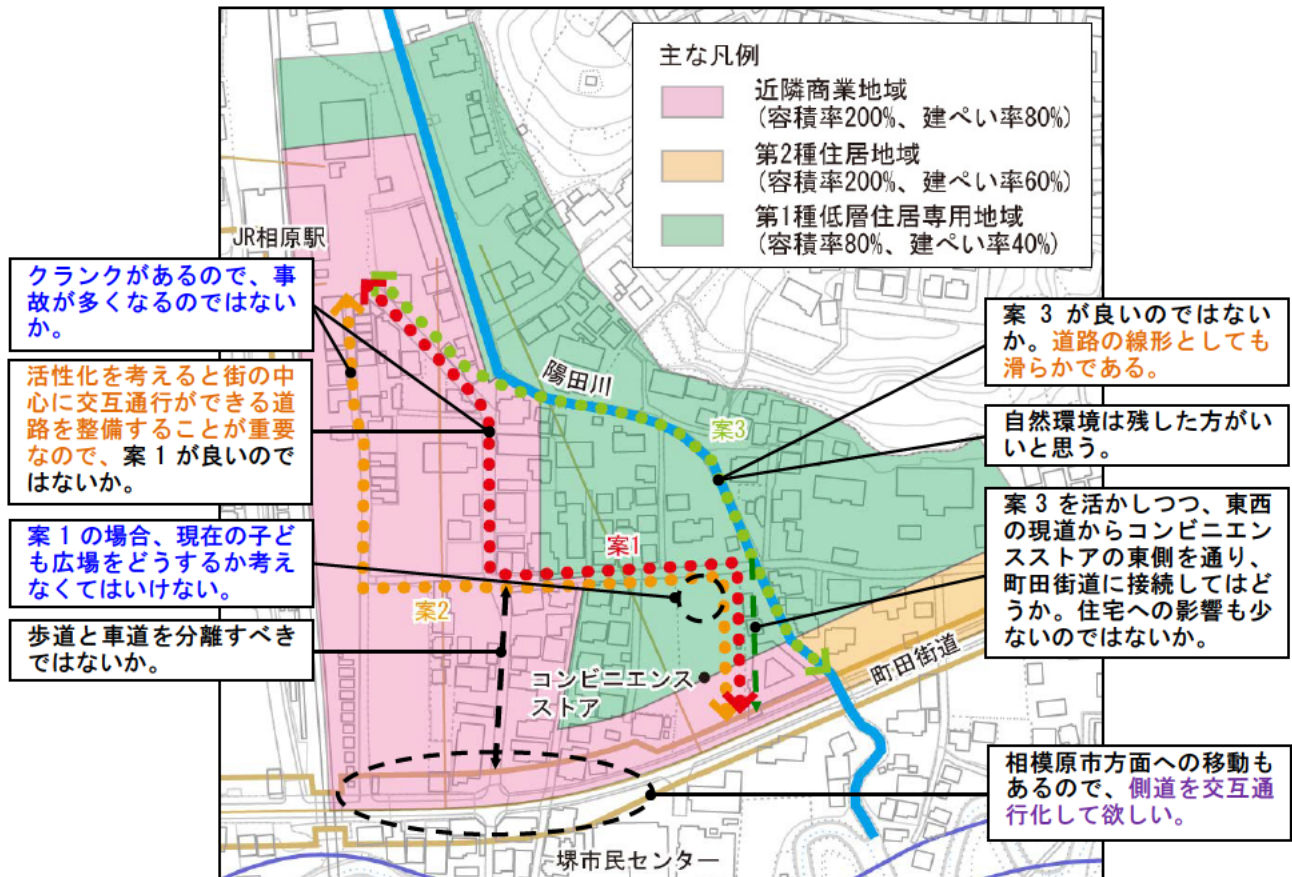
○東口のまちづくりについて

- ・町田街道の立体化に伴い、相模原市方面に行きづらくなり、東口がこれまで以上に衰退してしまうのではないか。
- ・商業施設を整備するのではなく、大学との共生を考えるべき。
- ・リニア中央新幹線の駅ができる橋本のことを考えてまちづくりを考える必要がある。
- ・町田街道の立体化や東口アクセス路は地元のことを考えたまちづくりにしてほしい。

○検討会への参加率の向上について

- ・町内会を対象とした説明を行ったほうが多くの参加者が見込める。

〈グループ2の主なご意見〉



(上記以外の主なご意見)

○東口アクセス路の幅員について

- ・街の中心となる道路は交互通行ができるようにしないと行けない。

○東口アクセス路に伴う交通状況の変化について

- ・八王子（東京造形大学方面）からの通過交通が増える。

○現況道路の拡幅について

- ・東口アクセス路以外の他の道路が狭いので広くなるといい。
- ・生活が不便にならないようにしてほしい。
- ・自動車の切り返しができない程狭い道路がある。

○東口の土地利用について

- ・将来的な活性化は必要だと思う。
- ・今までの住環境を維持したい。
- ・今のままが良い。アパートを創ると治安が悪くなるのではないかな。

○東口のまちづくりについて

- ・東口アクセス路をただ通すためだけの検討になっていないかな。

4. 次回日程等のお知らせ

2014年3月13日（木）19時00分から堺市民センター・ホールにて相原みちまち推進会議を開催します。相原みちまち推進会議については、本日のようにご意見を伺ったり、検討したりする場ではございません。これまでの検討結果を相原みちまち推進会議のメンバーにご説明する場になりますので、ご理解いただければと思います。

来年度以降も引き続き検討会を行いますので、よろしくお願いたします。